

日本民家園だより

特集

旧広瀬家住宅

vol.62

企画展示「山と風 ー甲州・広瀬家のくらしー」

2006年7月1日(土)～11月26日(日)

『日本民家園収蔵品目録6 旧広瀬家住宅』刊行

【山と風】

旧広瀬家住宅は、昭和44（1969）年、現山梨県甲州市塩山上萩原より移築されました。この住宅は古い民家のかたちを留めており、昭和45（1970）年に神奈川県から重要文化財指定を受けました。広瀬家が移築されるときに、同家で使用された生活用具のほか、運搬具や養蚕の道具なども寄贈されました。

これらの資料は、人々が日常生活のさまざまな面で知恵や工夫をこらしてきたことを教えてくれます。旧広瀬家住宅のあった地域は、大菩薩嶺の麓に位置する標高約770mの傾斜地帯で、冬には南アルプスから「シバマクリ」という乾燥した強風が吹きつけます。このような自然条件と上手に付き合いつつ暮らすため、人々は多様で特徴のある民具や、生活に必要な技術を生み出しました。

【旧広瀬家住宅】

旧広瀬家の宅地面積は一反歩（約300坪）あります。ここに母屋のほか、土蔵、味噌倉、納屋、ウマヤなどの付属屋が建てられていました。また、敷地内には屋敷神、道祖神などを祀っていたほか、飲み水になる湧き水が湧く場所がありました。

母屋は南向きに建てられ、強風に対応できるように軒が低くなっています。ほかにも強風対策として、西側にはヒノキ類、母屋の裏には杉の大木、庭には第2次世界大戦当時に樹齢250年ほどであったヒノキが植えられていました。

屋根を葺くのは冬で、河内（西八代郡下部町古関）から茅葺職人を呼び、自分の家で用意した茅を葺いてもらいました。今から100年以上前までは、屋根葺きと茅の採集・運搬のための「ユイ」と呼ばれる組織があったようです。また、屋根の棟には岩芝などを生やしていました。

母屋は建築当初からずっと間取りが同じではありません。移築前には、土間の裏手には勝手口があり、大戸が入っていたほか、ナンドとイドコには障子と雨戸で戸口が設けられていました。また、養蚕時代には母屋の屋根を上げ、2階3階を増築して使用していました。

明治中期頃は、この母屋のなかで家族7人が住んでいました。ナンドを年寄夫婦、ナカナンドを若夫婦が使用し、ザシキは客間と子供たちの勉強部屋を兼ねていました。食事はガイドコで作り、イドコで食べていました。風呂はなく、ドジ（土間）に盥を置いて行水をしまし

た。その後、ウマヤの位置に桶風呂を置くようになり、夏はこれを外へ移動させました。便所は外便所でした。

【広瀬家の暮らし】

広瀬家は裕福な農家でしたが、日常の暮らしは自給自足の質素なものでした。ウマヤには馬を2頭飼っており、農耕、肥料の生産、荷物の運搬などに使っていました。その他、家畜は豚や鶏がいました。

服装は主に、自宅で紡いだ糸で作った木綿の着物とワラ草履でした。暑い季節には編み笠や菅笠、ムギワラジャッポ（麦藁帽子）をかぶり、雨の日には畳表を2重にして作った「ケデエ」という雨具を背中に着けて仕事をしました。

食事は昭和20年代前半ごろまで雑穀と野菜が主でした。トウモロコシの粉を使ったモロコシ団子やオネリ、小麦で作ったうどん、大麦と米を1対1の割合で炊いたハンメシ、蕎麦などが食卓に並びました。行事やお祝い事などがある時には、煮物やおこわ（赤飯）を作りました。こうした食事は、材料から調味料まで、ほとんど自家製でした。

生活に欠かすことのできない水は、昭和34年（1959）頃に簡易水道設備が敷かれるまで、飲料水は敷地内にある湧き水を、洗い物などは近くを流れる文殊川の水を使用していました。また、広瀬家の土蔵の屋根は白樺の皮で葺いてあり、これを葺き替えた後などは雨の日に澄んだ水が滴り落ちます。これを近所の人たちが手桶に集めて使っていました。

自分の家で生産できないものは店で買いました。上萩原地域の店で用が足りなかったり、大量に必要なだったりすると、人々は天秤棒を担いで甲州街道の勝沼宿へ買い出しにきました。また、現中巨摩郡若草町の十日市は、白なども売っており、安くて有名だったほか、戦後のある時期には瀬戸物を大安売りする「ナゲウリ」が行われていました。会場は暗いので、帰ってきて買った物を見るといびつだったということもあったそうです。塩山に鉄道が開通した明治36年（1903）以降は、塩山にも商業関係者が集まり、便利になりました。

【広瀬家の生業】

広瀬家の生業は農業です。傾斜地帯のため、田を作るには石垣を作って土地を整備しなければならぬ上、水田を作るほどの水利や土に恵まれていなかったため、稲作は川の近くで多少

行う程度でした。そのかわりに、トウモロコシ、大麦小麦、蕎麦、粟などの雑穀や、小豆などの豆類、野菜が盛んに栽培されていました。しかし、これらの作物も、出荷するほどの量は収穫できず、主に家族の食料を確保するためのものでした。

一方、現金収入源となる収穫物は、時代の流れとともに変化してきました。江戸時代までは煙草の葉の栽培が盛んで、「萩原煙草」として名前が知られていました。明治になると養蚕が始まり、煙草畑は次第に蚕の食べる桑の畑と替わりました。養蚕は毎年5月中旬から始め、母屋にカゴダンと呼ばれる設備を作って蚕を育てます。忙しい時期には、近所や知人などが協力し合うほか、他地域の手を呼ぶこともありました。蚕が大きくなるに従って飼育に使用する面積が広くなり、人間の食事と睡眠に使うほんの少しの場所だけを残して、あとのスペースは土蔵、味噌倉、納屋にいたるまで蚕が占めました。養蚕の作業は毎年春から秋にかけて3回行われました。

盛んに行われてきた養蚕でしたが、時代が下るにつれて、化学繊維の台頭などの原因によって生糸の価格が下落し始めます。すると昭和30年代からトマトの栽培が盛んになりました。そしてトマトの栽培が下火になると、今度はコンニャクイモの栽培が始められ、昭和の末から平成の始めまで盛んでした。このような流れと平行して、広瀬家では、終戦直後からモモを、次いで昭和30年代からはスモモを栽培し始めました。これらの果樹はやがて主力生産品となり、現在に至ります。

天候が悪く外での農作業ができない日にも、人々は家の中で縄を絞うなどして働きました。絞った縄は農作業のほか、草履を作るときにも使いました。

農閑期には、燃料となる薪や小枝を伐る作業や、現金を得るために山での伐木とそれを運び出す作業などを行いました。この作業は定期的に行うもので、材木を出す仕事は中でも一番金になったといいます。このほかにも、地域の人々は、農閑期の副収入を得るためのさまざまな仕事を行いました。特に物資を運搬する仕事は盛んで、松のパルプ用材を搬出する「チップ」、馬を使って炭や生活用品を運ぶ「コニダ」、そして次項で述べる「スズタケ（煤竹）切り」などがありました。また、田畑の石垣を組む作業も行いました。

忙しい日々の仕事に追われる大人の傍らで、子供達は、養蚕の手伝いや炊事、あるいは山へ

燃料となる薪を採りに行ったり、お使いなどして働きました。また、戦時中には勤労奉仕として、4貫（15kg）もある炭俵をショイコで運んだりもしました。

【周辺地域の交易と運搬】

広瀬家周辺の地域では、マチへ買い物に行くとき、山から薪や木材を運ぶとき、畑へ肥料の原料である木の葉を運ぶときなど、それぞれの場面に適した多様な運搬用具が使われてきました。これらの道具は、傾斜の強い道でも重い荷物が運べるように工夫されています。道路を使って物資を運搬するには、人がショイコを使って背負うほか、馬や牛、「馬力」と呼ばれる車力も借りました。そして戦後からは一輪車や、テラーと呼ばれる原動機つきの車も使われるようになりました。普通の道路は幅が狭かったけれども、集落の大通りは大八車が通る程度の余裕がありました。

また、この地域では、農閑期などに、地域から地域へと荷物をリレーのように運んでゆく仕事が行われていました。特に「スズタケ（煤竹）」という竹製品の材料は、盛んに交易・運搬されていました。この竹に関わる仕事は、伐る人、買う人、運ぶ人、また次の間屋まで運ぶ人と分かれていました。まず、柳沢峠を越えた一之瀬高橋集落や、神金地区上方の人々が山から竹を伐り出します。伐るときには朝3時に起き、メンパに詰めたご飯を持って山へ出かけ、背丈くらいあるスズタケを束にし、帰りはこれを2つくらい背負って山を下りました。着る物はずいぶん痛んだけれども、よい収入になったといいます。刈った竹は集めて買う人がおり、その人たちはまた別の人に竹を売ります。その人たちは竹を下方の地区に馬で「ツケて（運んで）」きて、別の人に売ります。すると今度はこの人が荷馬車に積んでさらに下方の塩山まで運ぶのです。塩山まで持っていくと、そこには「ヨセ（集める）」の人がいて、竹をまた別なところへ売りに出しました。

こうした運搬用具のなかでも、特にカゴは欠かせないものでした。人々の使用していたカゴにはさまざまな形のものがああり、これらは身延山などのある河内と呼ばれる地域から来る職人の手によって作られていました。

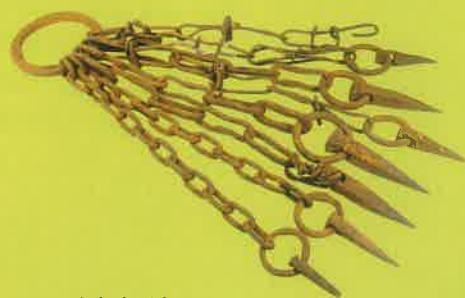
（野口文子）

旧広瀬家住宅関係資料



ドングルマ

製材所のない時代、山で伐り倒した木を載せ運搬した



カン

材木の木口にクサビを打込み、馬に曳かせて山から運び出す



ゴロカン

2つの輪のあいだに薪を詰め、山から転がして下ろす



クワカゴ

蚕の食べる桑の葉を摘み入れて運ぶ

ショイコ

薪や杉の枯葉を運ぶのに使用した



クワカゴ

桑の葉を摘み入れて運ぶ



マエダレ

荒神棚の前に垂らすもの



チラシ

塩山の町にあった劇場のチラシ